

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2375700792
法人名	社会福祉法人愛光園
事業所名	グループホームもくせいの家
訪問調査日	平成19年11月19日
評価確定日	平成20年 1月20日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2375700792
法人名	社会福祉法人愛光園
事業所名	グループホームもくせいの家
所在地	愛知県知多郡東浦町大字緒川字上荏又池 5 8 番地の 1 (電 話) 0562-85-0310
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
所在地	名古屋市中区丸の内 2 - 4 - 7
訪問調査日	平成19年11月19日

【情報提供票より】 (平成 1 9年 1 0月 3 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 1 4年 4月 1 5日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 16 人
職員数	14 人 常勤 9人, 非常勤 2人, 常勤換算11.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄筋コンクリート造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 (1 0月 3 1日現在)

利用者人数	16 名	男性	1 名	女性	15 名
要介護 1	2	要介護 2	4		
要介護 3	6	要介護 4	2		
要介護 5	2	要支援 2			
年齢	平均 83.9 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国立長寿医療センター、柳原医院、西原歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな広い敷地に平屋のユニットが2つあり、各居室も8帖ほどの広さで洗面所もあり、トイレは2名で1ヵ所と入居者に配慮した家である。テラス側の庭には職員や入居者による花や野菜が沢山作られており生活を潤している。管理者は積極的に職員を育てる取り組みをしており、各種研修会への促しや毎日の業務では責任を持つ担当者として職員を配置している。家族と事業所が協働して良い支援関係を保つ方法とし毎月家族の訪問日を設けて懇親会や切り干し大根作りなどの行事をしたり、全家族が集い、情報の交換や高齢者にまつわる諸問題について話し合う家族会を年3回開催している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	敷地の周囲の柵に蔓状の植物が植えられ威圧感が少なくしたり、介護計画は家族と入居者の要望をホームの訪問時によく聞き作成するように取り組んでいる。職員の勤務体制については話し合いの上で出勤体制を組み替え実施している。地域住民との連携は地域に一般の民家が無いので課題である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	常勤職員が自己評価をして業務の取り組みの現状を記入し、それを管理者がまとめ、施設の自己評価としている。各自の自己評価票から職員の理解度が改めて分かり、サービス向上の取り組みについて有効な手がかりになっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センター職員や地域の有識者、自治会長、民生委員、入居者や入居者家族、管理者やホーム長が出席して、毎回テーマを決めて意見をいただいている。先回は「ホームと地域との交流」について話し合い、地域の夏まつりに参加するなど取り組みが進展している。今後も運営推進会議を活用して入居者へのサービスにつながる事が期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの苦情は殆ど無く家族会などでお互いの問題を話し合う中で不安を解消している。ホームの訪問時に、会話の中から要望と思われる事については、職員会議等で検討してサービスの向上に活かしている。家族が職員に意見が言い易い雰囲気作りに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームは母体法人の福祉施設が点在した広大な土地にあり、まわりに一般民家は無いので、地域との連携は課題となっている。運営推進会議のメンバーを通じて徐々に交流範囲の広がりが期待される。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気づくりに努めます。」「人としての尊厳やプライバシーを守ります」「生活の主体性・自己決定を尊重しその人らしさを大切に」というグループホーム独自の理念がきんもくせい、ぎんもくせいの家のホールの壁に掲示してある。	○	管理者は、職員が理念の意味の理解が充分ではないと考えており、有効な学習の仕組みについて取り組みを進めていくことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務の中の事例を基に職員会議で検討を重ねて、管理者ではなく職員の間から対応の仕方や現時点での最良の方向性などの声が出る様に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームは母体法人の福祉施設が点在した広大な土地であり、そのまわりに一般民家は無いので地域との連携は課題となっている。	○	運営推進会議のメンバーを通して交流の範囲が広がることのが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの現状について全職員が意見を出し合い、自己評価にまとめて施設の課題として取り組むように、サービス改善の手がかりとしており、外部評価もサービス向上に活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員や地域の有識者、自治会長、民生委員、入居者や入居者家族、管理者やホーム長が出席して、毎回テーマを決めて意見をいただいている。先回は「ホームと地域との交流」について話し合い、地域の夏まつりに参加するなど取り組みが進展した。今後も運営推進会議を活用して入居者へのサービスにつながる事が期待される。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は役所へ頻繁に出向き、関係部署の委員や講師として連携をはかりグループホームのサービス向上の為に情報交換を常に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の状態に変化がある時はその都度、電話等で報告をしており、毎月の家族会の訪問時に生活の様子を伝えたり、お小遣い帳の出納を確認の上サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情は殆ど無く家族会などでお互いの問題を話し合う中で不安を解消している。ホームの訪問時に、会話の中から要望と思われる事については、職員会議等で検討してサービスの向上に活かしている。家族が職員に意見が言い易い雰囲気作りを努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の連携をよくするために、ユニット間の異動を行い、夜勤体制がスムーズに実施されている。異動等による影響への配慮として異動した職員が頻繁に顔を出している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人で研修部会が活動しており、グループホームの職員も研修を受けており、また県のグループホーム連絡協議会の研修会にも順番に出席し、研鑽を積む職員の資格取得の支援をしている。	○	法人内での毎月の研修会への参加が時間的に難しい面もあるので、映像による学習の後にレポートの提出をして管理者から指導を受ける方法などの取り組みを進めていくことが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接のグループホームと入居者も同行して交流会をもち、情報交換や意見交換等をする機会があったが、今は立ち消え状態になっている。	○	同業者との交流会を実施するなどの取り組みの検討が期待される。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族がホームへ来訪したり、職員が自宅への訪問を行い、希望や本人の状態や様子など確認する事を行っている。入居日には赤飯などで歓迎の気持ちを表している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りの場面では入居者に教えてもらう事が多々あり、畏敬の念を持って接している。また入居者の何気ない笑顔が忙しい業務の中で心の和みとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や意向をふまえた支援であるように日常生活での会話の中から気持ちをくみとる事に努めて各利用者に担当者と補助担当者を決めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の要望を把握する事に努めており、心身の状態も加味して担当の職員と計画作成者と協議して、本人や家族と話し合い、自立支援につながる介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケア会議で入居者の様子について検討して、3ヵ月に1度の見直しを実施している。状態に変化が生じた時は本人や家族と話し合った上で計画を変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の要望で月命日に自宅へ送迎したり、馴染みの店への買い物に同行したり、なじみの理美容院への送迎や隣接する老健施設で長寿体操教室や交流を目的に同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3ヵ所の協力医療機関の他に、訪問診療として開業医に依頼し、来訪してもらい診療を受けてかかりつけ医となっている。本人や家族の希望するかかりつけ医へは家族が同行して対応しており、かかりつけ医とは連絡を取り合い入居者の介護支援に協力的である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所で対応できない状態になった時は家族とかかりつけ医や老健や病院のワーカーと繰り返し話し合って対応を決めている。職員も方針として共有している。本人や家族の安心に向けて何が出来るか検討する仕組みがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報情報は職員室のロッカーに保管しており、グループホーム職員以外は閲覧が不可能であり、入居者への言葉かけは誇りを大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体のおおまかな生活のリズムは出来ているが、入居者のペースを第一に考えて起床時間や食事の時間など全体と異なっても希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好みと季節を加味して職員が立てており、入居者も加わって調理して職員も一緒に食べている。今月の誕生会の献立の希望を聞くなどの取り組みもしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットとも毎日風呂を沸かして入居者の希望に沿って入浴している。自立度の高い入居者が多いので自分でのんびり入って入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の活力を引き出すために、係の当番表があるが、その日の状態により無理な場合は、名札をそっとはずし負担をかけない様子したり、脳トレーニングの学習療法を楽しみながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広大な敷地であり、散歩に出て四季の変化が感じられて楽しめるので、花の様子や野菜の収穫にと職員の声かけで入居者の状態に合わせて外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの出入口に鍵をかけておらず、施錠による弊害を職員は認識している。危険回避の為に玄関戸にはチャイムが付けてある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回の自主防災訓練は訓練のテーマを決めてそれに対処する方法と行動の計画を立てており、終了後は評価や問題点の検討をして、災害時に入居者の安全を第一に行動できるよう努めている。また、法人内での応援体制は出来ている。	○	近隣の地域住民との協力体制は出来ていないので取り組みの検討が期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは法人内の栄養士の指導を得ており、既往症状のある入居者には食べる量など特に気を付けて配膳をして、体重は月に1度は測定して健康状態を保ち、湯茶は安定の良いポットに入れて随時に飲める様に食堂に置いてある。		
応					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くて高い天井と木の材質で覆われ、花がいろいろなところに飾られており明るい日射が入り、気になる臭いや音など無く、畳コーナーや所々に椅子や長椅子が置かれ、居心地よく過ごせる空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスや仏壇、飾り物や趣味の歌のテープ、思い出深い写真など入居者の大切な品々が居室を温かなしつらえにしている。和室と洋室があり好みに対応している。	○	簡潔な居室の入居者や家族と相談のうえ思い出の写真などを飾るなど、介護支援への手がかりと、若い頃の想いを生活の意欲に活かす取り組みを進めていくことが期待される。

※  は、重点項目。